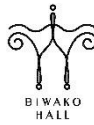


当初の予定より曲目を変更して開催します



<びわ湖の午後 61>

びわ湖ホールだけの
特別なプログラム！！

妻屋秀和バス・リサイタル

【日 時】 2022年 7 月 23 日 (土) 14:00 開演 (13:15 開場/16:00 終演予定)

【会 場】 滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 小ホール (滋賀県大津市打出浜 15 番 1 号)

【出 演】 妻屋秀和 (バス) 木下志寿子 (ピアノ)

【プログラム】 第1部 モーツァルト：『魔笛』より “この聖なる殿堂に住む人は”
モーツァルト：『フィガロの結婚』より “復讐とは、ああ、復讐とは！”
ロッシーニ：『セヴィリアの理髪師』より “陰口と言うやつはそよ風のようなもので”
ベッリーニ：『夢遊病の女』より “ああ、懐かしい大地よ”
ドニゼッティ：『ランメルモールのルチア』より “ああ！我慢するのです、我慢を”

第2部 ヴェルディ：『シモン・ボッカネグラ』より “惨めな父親の引き裂かれた心は”
『ナブッコ』より “神よ、あなたは預言者達の唇を”
『マクベス』より “息子よ、歩みに注意するのだ”
『シチリア島の夕べの祈り』より “ああ、祖国よ”
『ドン・カルロ』より “彼女はわしを愛した事はなかった！”

HPはこちら



びわ湖ホールの歴史に残る刮目すべきリサイタルになるだろう 国土潤一 (音楽評論家)



びわ湖ホール プロデュースオペラ
『神々の黄昏』ハーゲン役 (2020年)

日本人の声は、基本的に高めであり、女声のコントラルトや男声のバスといった低声歌手は非常に少ない。その「希少種」のなかでも「名手」と呼べる歌手は、日本の西洋音楽の歴史を顧みても果たしてどれだけいただろうか？バスとしての声の素養の持ち主というだけでも、日本では非常に少ないのだが、更に芸術家としてのインテリジェンスまで兼備した歌手が同時に2人共存していた時代というのは、筆者には全く思い浮かばない。

昨年度の第72回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した妻屋秀和は、そんな稀有な日本人バス歌手として、余人を持って代え難い孤高の存在となった。東京藝術大学とイタリアで学び、ドイツでオペラ歌手としてのキャリアを重ねる妻屋は、その拠点を日本に移してからその芸術家としての視点と声楽家としての技術を、忍せにせずに成熟を重ねてきた。帰国後に更に進歩しているという点でも、妻屋は例外的な存在であろう。

バス歌手の守備範囲は、聖人、賢者、老人、悪魔等の邪悪な存在諸々、喜劇から悲劇まで実に多様な役柄がある。日本中のオペラ・シーンで、その総てを一手に引き受けている妻屋が、キャリアの絶頂期であろう現在、びわ湖ホールでバス歌手にしかできないとんでもなく意欲的なプログラムのリサイタルを開く。

こんなプログラムで聴衆を魅了できるだろうバス歌手は日本だけでなく欧米でも果たしてどれだけいるだろう？びわ湖ホールの歴史に残る刮目すべきリサイタルになるだろう。

【料 金】 一般 4,000(3,500)円 青少年(25歳未満) 1,500円 [全席指定・税込] チケット発売中

※()内はびわ湖ホール友の会会員料金 ※お申し込みいただいたチケットのキャンセル、変更はできません。
※6歳未満のお子様はご入場いただけません。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いいたします。
※チケットお申し込み後、期限内に所定の手続きをされなかった場合は、チケットの販売・お引き渡しをお断りします。

■チケット取り扱い・お問い合わせ

◎びわ湖ホールチケットセンター TEL.077-523-7136 (10:00~19:00 火曜日休館、休日の場合は翌日)

◎インターネット受付 <https://www.biwako-hall.or.jp/>

主催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール



叶 匠 壽 庵



平和堂



木の家専門店
谷口工務店

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー